

第9回獣医学教育改革委員会

「獣医学共用試験 (CBT・OSCE) のトライアル実施に向けて」

平成25年9月21日 午前9時～12時

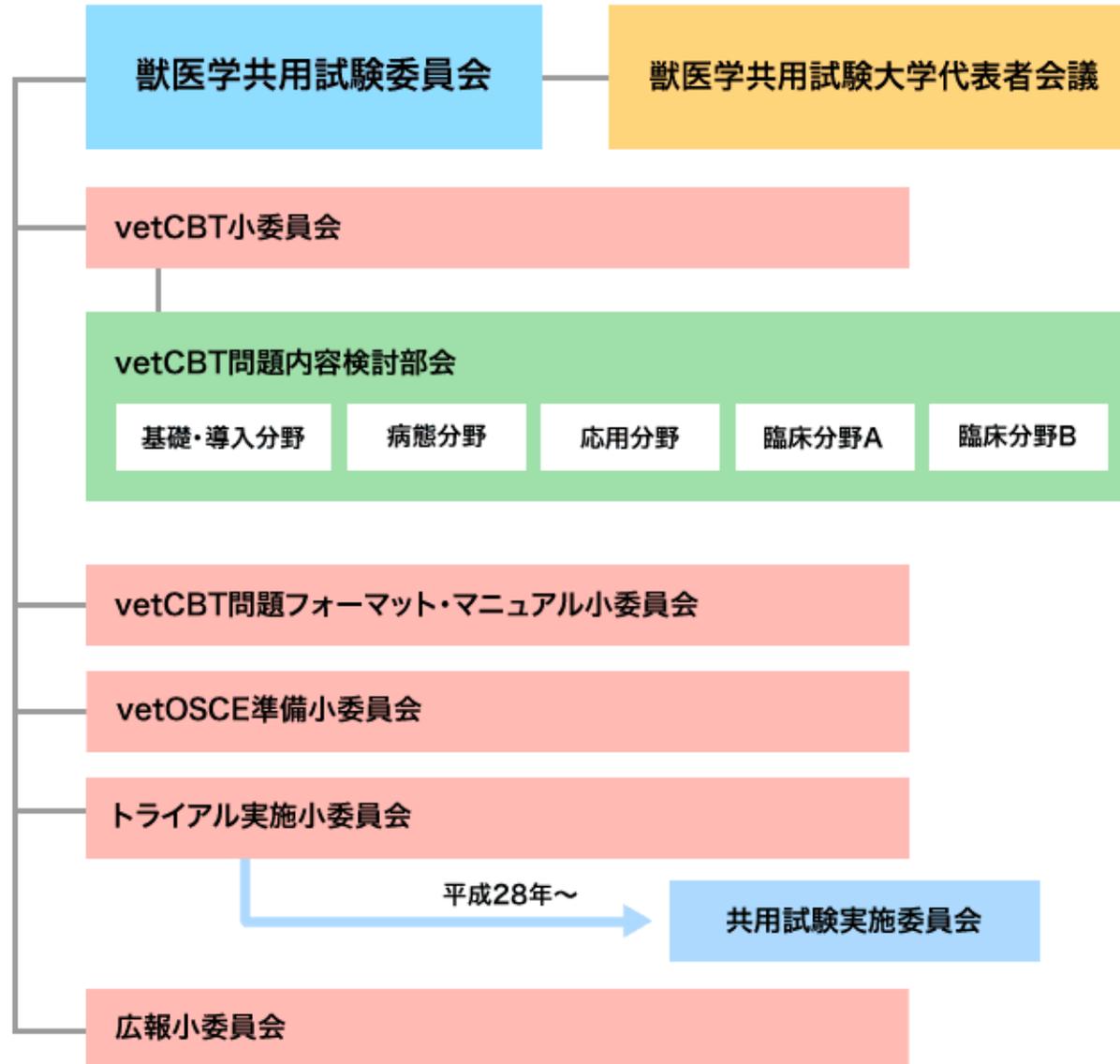
第6会場

本日の予定

1. 共用試験のトライアル実施概要○高井 伸二、山下 和人
2. vetCBTの実施と予想される効果・影響○杉山 誠
3. CBT出題システム開発について○遠藤 大二、森田 達志
4. vetOSCEの準備状況○北川 均
5. 獣医学共用試験のトライアル実施にむけて○澁谷 泉
6. 獣医学共通テキスト刊行状況について○橋本 善春

共用試験の進捗状況のご報告の中で、特に234の項目を重点的にご説明し、意見交換ができれば幸いです。

獣医学共用試験委員会組織



1. 共用試験委員会の活動概要
2. 獣医学共用試験トライアルの概要

○高井 伸二、山下 和人

北里大学獣医学部
酪農学園大学獣医学部

第9回 獣医学教育改革委員会
平成25年9月21日 午前9時～9時15分

1. 小委員会からの進捗状況の報告

(1) 共用試験委員会

- 共用試験委員会の開催報告と25年度予算
- これまでの経費に関する試算案

(2) 大学代表者会議: 尾崎先生・杉浦先生

- 共用試験に関わる規則の制度化の検討
- 獣医学共用試験機構の設置の検討
- 一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款(案)

(3) vetCBT小委員会: 杉山先生・・・本日

- 問題精選の作業進捗状況
- 平成25年度の問題作成・精選の次のステップについて

(5) vetOSCE準備委員会: 北川先生・・・本日

- vetOSCEの準備状況

(6) トライアル実施委員会: 山下先生・高井

(7) 広報委員会: 澁谷先生・・・本日

(8) CBT実施ソフトの開発状況について: 遠藤先生・森田先生・・・本日

共用試験委員会

- 第1回委員会 平成25年5月30日
- 第2回委員会 平成25年8月24日

- 科研費基盤(A) 平成25年度事業の検討
 - 目標: CBTトライアルの実施(システム構築と問題精選)
 - OSCETトライアルの準備
- 小委員会の進捗状況と問題点の検討など

平成25年度基盤A費用の詳細(1180万円)

- ソフト開発費など
- 1) CBT登録サーバー構築・メンテナンス 100
- 2) CBT試験実施システム構築 150
 - (1)試験当日支援・試験サーバーセットアップ
 - (2)メンテナンスとセキュリティ
 - (3)二大学でのトライアル用サーバー
- 3)OSCE開発費 150
- 4)HP管理費 20
- 5)トライアル後の解答の解析関連 30

平成25年度基盤A費用の詳細(1180万円)

- 人件費・謝金 300
 - 1)北里大 2)札幌
 - 3)CBTおよび精選関係の支援業務
- 旅費 330
 - 1)CBT小委員会 杉山先生
 - 2)OSCE小委員会 北川先生
 - 3)トライアル小委員会 遠藤先生
 - 4)澁谷先生 5)高井 6)山下先生 7)稲葉先生
- 物品費
 - 1)トライアル関連の備品
- 消耗品 60
 - 1)分担者 2)代表者

獣医学共用試験機構の設置の検討

- 一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款(案)
- 本案作成に当たりましては、過日頂戴した「一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款(案)」を基に、主として、
 - ①一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、
 - ②公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の関係条文を適用しながら、
 - “近い将来に公益社団法人成りを目指している一般社団法人の原始定款”としてふさわしいものを起案する、との方針で臨みました。

機構の立ち上げ

- 正会員は16大学
- 総長・学長の承認(正会員)
- 立ち上げは本格実施1年前の平成27年から
- 所在地は日本獣医生命科学大学に

全国協議会(19日)の審議事項

- 平成27年度 トライアル予算:16大学分担金
- 参考:平成28年度以降の機構予算(案)
- 共用試験の実施時期:アンケート調査から
- 平成25年度のトライアルについて
- CBTの合格基準点を60%(原則として)

問題は平成27年度の予算

- 科研費・基盤研究(A)24年～26年の3年間
- 平成27年のトライアルの資金は・・・
- 16大学に分担金をお願いした(昨日)
- 1学年の平均在籍学生数×1万円
- 国立大学は30万～40万円
- 私立大学は100万～150万円
- 全体で1050万円位となる

- しかし、OSCE開発費などが不足・・・

- 本試験は28年から

資金は薬学共用試験の十分の一以下！

薬学独自の共用試験に必要な経費の予測

- システム開発・運用・保守等 ⇒ 事業費
- 中継サーバ（各大学）の更新（5年ごと） ⇒ 事業費
- 運営・管理（組織の運営・会議等に要する費用） ⇒ 運営費

システム開発予測（含保守、サーバのリース等） ⇒ **約6億円**（総額）
（開発後のシステム運用、改修、保守、リース等 ⇒ 未確定）

運営費予測 **約 4千万円**（年）

- 当初資金： 運営費 350,000円／大学（一律）
システム開発費 750,000円／大学＋（学生定員数×9,000円）
（本格実施が始まるまでの3年間） = 約1億5千万円／年
例：6年制学生定員40名の国立大学 = 146万円／年（当初3年間）

- 本格実施が開始されてからは（平成21年度以降）：
運営費：500,000円／大学／年 ⇒ 3千7百万円／年
受験料： 25,000円／人 ⇒ 2億5千万円／年

- 近未来計画：中継サーバ（5年間リース）の交換時期（平成22年度）、
連問（連続問題）の導入、動画の導入のために資金を残す必要がある。
- 新作問題の導入のための検証作業 ⇒ CBT体験受験（現在5,000円）

共用試験経費の試算(平成28年)

初年度予算額(案)

(単位:万円)

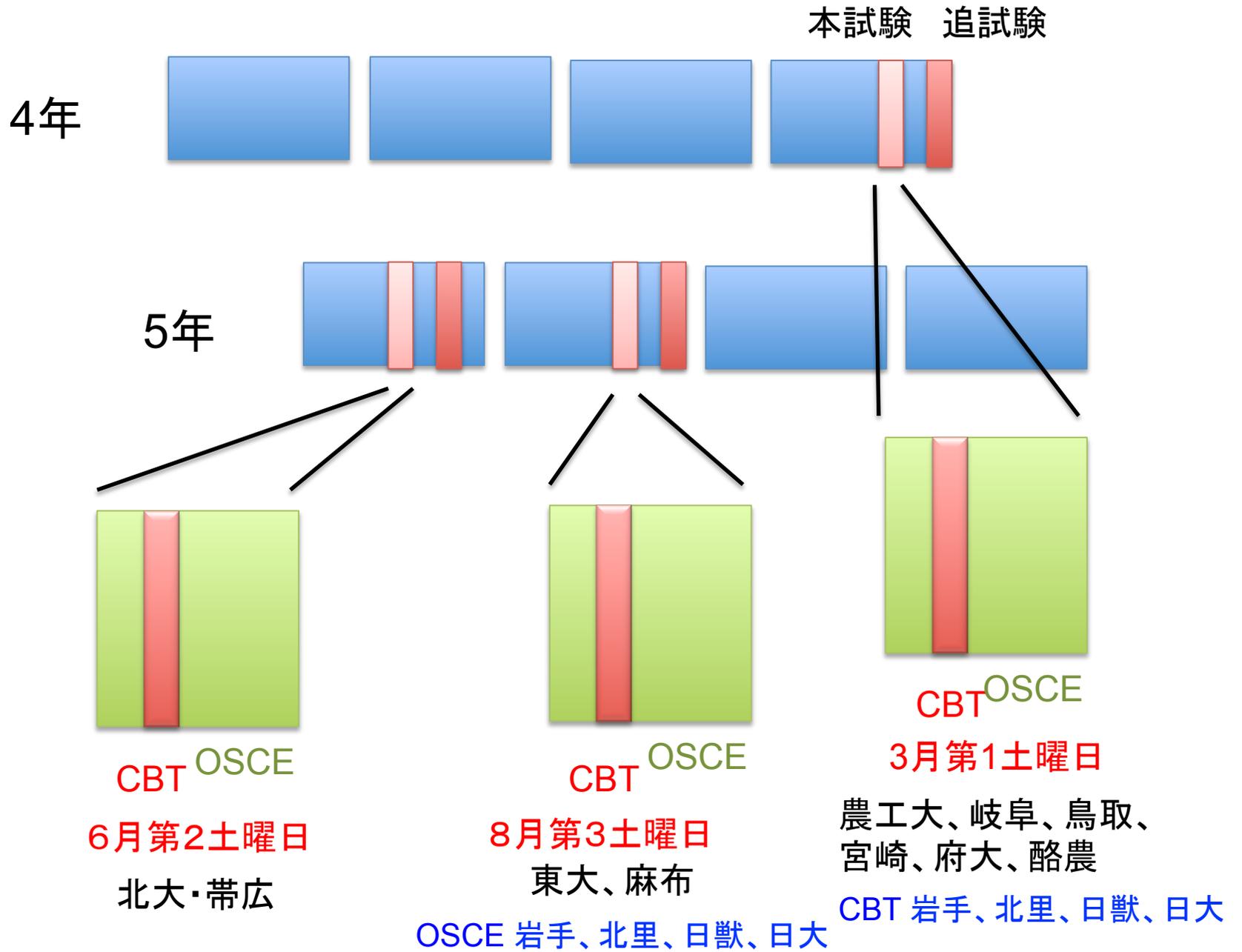
収入	単価	員数	小計
大学会費	35~80	16	945
受験料	1.8	1000	1800
再受験料	1.8	50	90
収入計			2835
支出			
事業費支出			822
試験直前確認旅費	5	16	80
試験監督旅費	3	96	288(3万円*6人 * 16大学)
会議旅費	5	10	50(10カ所)
謝金(講師など)	2	10	20
試験監督手当	3	96	288(6人*16大学)
試験監督補助手当	1	96	96(6人*16大学)
管理費支出			2013
給料手当(事務員常勤)	420	1	420
給料手当(理事非常勤)	284	2	568
福利厚生費	70	1	70
退職金積み立て(事務員)	15	1	15
事務所賃借料	5	12	60
高熱水料費	30	1	30
消耗品	30	1	30
印刷製本	50	1	50
備品	50	1	50
通信費	10	12	120
試験用ソフトウェア運用費	300	1	300
ソフトウェア・備品更新積み立て	200	1	200
他雑費	100	1	100
支出計			2835

列1	定員(人)	固定(万円)	学生数調整 (万円)	計
北大	40	30	20	50
帯	40	30	20	50
岩手	30	30	15	45
農工	35	30	17.5	47.5
東京	30	30	15	45
岐阜	30	30	15	45
鳥取	35	30	17.5	47.5
山	30	30	15	45
宮	30	30	15	45
鹿児島	30	30	15	45
府大	40	30	20	50
酪農	120	30	60	90
日	120	30	60	90
日獣医	80	30	40	70
北里	120	30	60	90
麻布	120	30	60	90
計	930	480	465	945
		固定分	学生1人分	
			30	0.5

大学会費 945万円 受験料 1800万円 再受験料など 合計2835万円位(予定)

CBTとOSCEの実施時期について

- 16大学にアンケート調査を実施
- CBT試験
 - 4年終了時
 - 5年前期の前期
- OSCE試験
 - 4年終了時
 - 5年前期終了時
- 余談: 自治医科大学は3年終了時に共用試験を実施し、臨床実習を2年半・・・国家試験合格率の高い理由はこれですね。



頂いたご意見

- 組織体制がきちんと機能していないように見受けられる。各大学代表で構成される委員会の役割が不明瞭。
- 再試験不合格者の救済措置は可能でしょうか（年3回の実施となります）。
- 不合格者に対する再試験はどのように対応するか？
- 学生の費用負担，試験システムの検討が不十分のまま，共用試験を実施することだけが進んでいるようなので，明確にして頂きたい。
- 共用試験問題のレベル統一のための雛形や講習が必要なのではないか。

平成25年度のトライアル

- 日獣大・獣医学科5年次学生97名を対象
- 麻布大
- CBT実施可能日：平成25年12月24日、26日
平成26年1月14日、20日 2月14日
- システム開発状況と相談しながら、近々に決定したい。
- ◎OSCE実施日 平成26年2月15日：決定
- 多くの大学からの見学を希望

トライアル・本試験(案)

- CBT(タブレットPCを用いた客観試験)
 - 具体的なシステムは遠藤先生から
 - 分野別問題数などの詳細は杉山先生から
-
- OSCE(客観的臨床能力試験)
 - 具体案の詳細は北川先生から

合格基準点(案)

- CBTの合格基準点(=合格点数)
- 基準点到達者(=合格者)
- 60%とする
- 出題分野(ゾーン)・問題数・・・杉山先生から
- ゾーンでの足りりはなし
- OSCE評価・・・北川先生から

進捗状況と今後の予定

年度	教育研究体制の整備	共用試験委員会
23 2011		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 9月総会 方針の確認 ✓ 10月科研費基盤A申請(事業費) ✓ 11月準備委員会総会
24 2012	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同学部・学科(1年生) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共用試験委員会の発足(科研費基盤A) ✓ 試験問題作成開始 (16大学)
25 2013	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同学部・学科(2年生) ✓ 共用試験第一期生(1年) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共用試験実施機構の設立の検討 ✓ 第1回CBTトライアル
26 2014	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同学部・学科(3年生) ✓ 共用試験第一期生(2年) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第2回CBTトライアル ✓ OSCEトライアル
27 2015	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同学部・学科(4年生) ✓ 共用試験第一期生(3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第3回CBTトライアル ✓ OSCEトライアル ✓ 共用試験実施機構の設立
28 2016	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同学部・学科(5年生) ✓ 共用試験第一期生(4年) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共用試験本格実施(4年生後期から)
29 2017	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 共同学部・学科(6年生) ✓ 共用試験第一期生(5年) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 参加型実習開始(5年生から)